

共同研究「『社会変革』の現在班」第1回研究会

阿部 小涼 氏 (琉球大学法文学部教授)

2013年12月1日(日) 15:00~

関西学院大学・先端社会研究所セミナールーム

(社会学部校舎3階)

「廃墟の大学を散歩しなければならない」

概要:「雲の中を歩まなければならない。」桑原武夫の否定命令をこのようにひっくり返したのは花田清輝だった。花田の「歩み」は目的に向かって邁進するようではない、散歩するような足取りだったから、命令法に従わないステップを、ひとまず想像しておこう。今日、大学はもう世界を見下ろす姿を包み込んでくれる薄もやの中にも、象牙で出来た塔の中にもない。廃墟と化した大学でカルチュラル・スタディーズの波濤を体験してしまった社会学者は、どのように現在を生きているのか。大学のなかで研究を、機能不全の民主主義のなかで運動を、「現場」や「当事者」の語でつなぎ合わせながら散歩するように行うことについて、学生の皆さんと大いに語り合う機会としたい。

報告者紹介: (あべ こすず) 専門は、カルチュラル・スタディーズ／カリブ海地域研究／社会運動研究。主要著書として、「皮膚と反復」李静和編『残傷の音:「アジア・政治・アート」の未来へ』岩波書店(2009)、「『集団自決』をめぐる証言の領域と行為遂行」新城郁夫編『攪乱する島: ジェンダー的視点』(沖縄・問いを立てる3) 社会評論社(2008)。主要論文として、「ラディカルな沖縄の〈当事者〉: 屈折するインテグリティと沖縄戦後史プロジェクト」『沖縄文化研究』38号(2012年3月)、「抵抗の領域における邂逅: 出会い損ねる主体の詩学から」『立命館言語文化研究』第19巻2号(2007年11月)、ほか多数。

主催: 関西学院大学「『社会変革』の現在班」

共催: 関西学院大学先端社会研究所 (2013年度第4回定期研究会)